

# せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成25年5月 第147号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

## 福祉避難所

今年の2月1日、加古川市内13の特別養護老人ホームを災害時の福祉避難所とする協定書が、11法人の代表者と市長との間で調印されました。大きな災害時の避難所としては、各町で学校や公民館が指定されていますが、認知症のお年寄りや障害を抱える子供達には暮らし難く、生活機能を備える福祉施設が2次的な避難所の役割を担う事となりました。

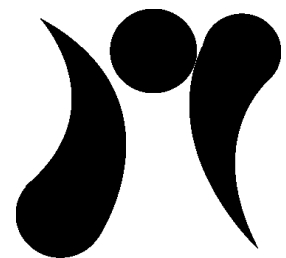
3・11の東日本大震災では被災した老人ホームも多く、我々にとっては、自施設が被災して避難しなければならない場合と、福祉避難所としての役割を果たす場合と、2つの側面を考慮しながら対策を立てる必要が生じてきます。

ライフラインが確保されている場合で、ご利用者や職員が被災していない場合には、介護施設の持つ生活空間としての機能は、避難者を一時的に受入れる余力は十分に備えている、と考えています。自施設の利用者や職員の避難・救助と同時に、近隣にお住まいの方々の避難・救助の拠点となる役割を自覚して、改めて避難訓練を企画し実施しなければならない、と緊張感を覚えます。

具体的な対策については、行政の担当部局との協議に入った処であり、これから様々な角度から問題点を探り、地元町内会の皆様方を交えて検討して行きたいと思えます。

平成7年の阪神・淡路大震災の時、海外からも多くの救助隊が駆けつけ、医療チームや救助犬の活動が大きく報じられました。多くの建物が全壊し、生埋めの人や重症者も多く、神戸市民病院を初め多くの医療機関が損壊を受ける中で、『トリアージ』と言う聞き慣れない言葉が報道されました。大きな災害や事故・戦争などで負傷者が多数に上った場合に、医療資源を効率的に配分する為、緊急度に応じて治療や搬送の優先順位をつける事でした。

直ちに治療をすれば救命できる重症者に第一順位の赤色タグをつけ、厳重な監視下で治療を待つ中等度症状の人が第二順位の黄色タグ、軽傷者が第三順位の緑色タグ、治療しても救命の可能性の低い最重症者は黒色タグで医療処置の対象としない、という患者選別作業です。(次ページへつづく)



(前ページのつづき)

私を始め日本人の多くは最初、最重症者を治療しないことや、順番を無視することには、大きな違和感を覚えたように思います。しかし医師も薬剤も不足する緊急事態において、効率的に救命する為には是非必要な作業として、欧米社会では広く認識されています。

3・11以後、全国各地で大災害を想定した避難・救助訓練が行われるようになり、トリアージも採り入れるようになりました。佐賀大学の北川慶子教授が講演の中で、九州の或る地域で避難・救助訓練に負傷者役として参加した学生が、黒色タグを着けられてブルーシートに横たえられた後、訓練が終わるまで誰も来なくて非常に不安に感じた、と報告されていました。

避難・救助訓練を企画・実施した行政や消防・救急関係者がトリアージの必要性は認識しても、治療不能と判断され死に直面する負傷者に対して何ら為すべき事の準備が無かった、という事実が解り、非常に興味深く、強く印象に残っています。

大きな災害では自然淘汰にさらされ死に直面する命と向き合い、一方で日常的には、自然の摂理で死を迎える命に向き合うのが、自然界の一員としての人間の宿命です。群れて集団で暮らす動物が多々ある中で、人が他の動物と最も大きく違う処は、『死を待つ命』を集団の中に受容れて暮らす処です。

老いて動けなくなると、群れから離れて一匹静かに自然に還るのが一般的な動物の姿ですが、人は最期まで群れの中で暮らします。死を巡る様々な営みの中で、思想や宗教が芽生え、文化や科学や芸術を育み、社会の制度を整えてきました。人が社会を構成して次の世代に引継ぐ営みの原点が、『死を待つ命』と共に暮らし、容態の悪化や死を巡って苦悩し葛藤する経験に在るのです。

緊急時における避難・救助の対処法は、平常時における想定と準備がその出発点であり、トリアージの結果に対する夫々の対処の仕方も、日常の生活の中で準備をしておく必要があります。赤色や黄色タグの負傷者への医療チームを編成すると同時に、黒色タグの『死を待つ命』に対処する場所と人を用意する事が、『人間の社会』である事の証明になるのだと思います。

超高齢社会の中で特養は今、自然の摂理として死に向き合う命に寄り添い、日々の暮らしを模索しています。QOLを尊重する中で『命の長さ』と『命の質』を対比する必要性が生じ、日々の暮らしを創るなかで具体的に判断する場面に遭遇します。『命の質』を計る物差しを創る営みに心を砕き、『命より大切なもの』に出会い、次の世代に伝えて、新たに誕生する命の生きる途につなげたい、と願って介護しています。それは正に、トリアージで黒色のタグをつけられた『死を待つ命』への対処と同等・同質の判断を、日々繰り返しているのと同じではないか、と感じます。

特養が福祉避難所としての準備を始めるに当たり、大きな災害を乗り越えて次の世代に命を引継ぐ為の仕組みとして、何をどの様に準備していくのか、について地域の皆様方と深く議論する処から始めたい、と願います。人間の社会が『死を待つ命』と『新たに誕生する命』を包含した営みであることの証として、更には、幸福度が高くて財政的にも健全な超高齢社会を築く為にも、地域包括システムの拠点に相応しい特養でありたい、と心を新たにしてお決め意です。

せいりょう園 渋谷 哲



## 「入社3年目を迎え新人職員に伝えたい事」

ユニット型特養

高瀬 美咲（介護福祉士）

せいりょう園に入社し、今年で3年目を迎えました。ユニットでは新入社員も3名が加わり1ヵ月が経ち、私自身も先輩として新人指導に励んでいます。新人職員の頑張っている姿を見ていると毎日初心を思い出します。職員それぞれ、せいりょう園に入社しようと思ったきっかけは様々ですが、私が入社したきっかけは学生の頃に何度かボランティアとして来させていただき職員にベッドメイキングの方法や、コミュニケーションや観察を通して利用者と関わりを持ち学ばせてもらったことです。実際利用者に関わると、自分の声が小さく、相手に伝わりにくく、笑顔でいると、「何で私の顔を見て笑うんや」と立腹された事もあり、高齢者との関わりが難しく感じた事もありました。今まで他の施設も見学してきましたが、ユニットでは、玄関も施設しておらず利用者も自由に出入りしており、利用者によってですが職員も止める事がなく、その時は私にとってとても衝撃的であった事を今でも覚えています。ボランティアや実習で来られる方も「出ていってますよ」「大丈夫なんですか？」とよく質問がありましたが、職員は、一人ひとり利用者のできる事を把握できており、見守りも行っている事を職員になってから知り、その時の対応について理解ができました。食事についても他の施設と違い、目の前で厨房職員が食事を作っている事で、五感を感じ家庭的な空間である所や、建物も自分の家で過ごしている様な環境であり、せいりょう園での魅力を感じ、又利用者にも会いたいという気持ちが強く、理念も理解した上で入社しました。

職員になると業務に追われていますが、改めて新人の頃の観察期間がどれだけ貴重で大切であったかを再認識しました。一日の過ごし方や行動、状態も日々違うので、普段と違う変化に気づく事ができる大切な期間でもあります。今後も介助を通して積極的に関わり日々観察力も身につけていきたいです。

入社してから特に2年間で多くの利用者を看取りました。衰えていく姿をみるとつらいですが、ターミナルの診断を受けてから、どのような緩和ケアが行えるのか考え、その人にとって入所してから最期まで快適に自分らしい生活を送って頂けるように援助していきたいです。又、御家族との関わりも大切であり、日々の状態報告も重要であります。私は一人ひとり関わり過ごしていく中で、印象深い出来事や思い出についても話したり、御家族が知らない一面などをコミュニケーションを通し、伝えていきます。今後も利用者にとって、御家族にとっても、せいりょう園でよりよい生活を送り、充実した日々を送れたと感じてもらえればと思います。そして人生の先輩として、日々利用者を尊重して日々のケアに努めていきたいです。

思い出せば新人の頃は、利用者に対しても「あんたはダメ」と言われ続け、落ち込む事もありましたが、まっすぐ利用者と向き合う事で理解してもらえました。利用者にとっても知らない私達に介助される事は、恐怖感や不安感を与えていたのだと思います。新人職員も不安に思う事やわからない事も多いと思いますが、先輩職員からの指導をしっかり学び、知識、技術を身につけ自信を持って行って下さい。私も人に教える立場になり、自分が行っていた介護技術や利用者との接し方など見直しながら、新人職員の丁寧な声かけや対応を行う姿をみて初心の気持ちを忘れずに職員一同成長し、よりよい環境作りやケアを行っていきたいです。





## テーマ「せいりょう園の終の棲家」

せいりょう園老人介護支援センター  
社会福祉士 吉田 知一

出来るだけ住み慣れた場所で最期まで過ごしたい。これは多くの方が望んでいることだと思います。全国で行ったアンケートでは全体の6割の方は、住みなれた自宅での最期を望まれているとされています。とはいえ、介護が必要になり、一人暮らしをされている方や家族が日中家にいない方など、様々な理由で自宅で過ごすことが難しいと感じている方もいらっしゃると思います。

せいりょう園の敷地内には特別養護老人ホーム以外にも、最期まで過ごすことのできる、「終の棲家」をご用意しています。今回の語ろう会では、せいりょう園の終の棲家のご紹介をさせていただきました。

### <特別養護老人ホーム>

いわゆる老人ホームのことです。要介護1から要介護5の方が申し込み出来ます。



従来型特別養護老人ホームは、20名定員。2人部屋になっており、お部屋の真ん中に間仕切りを通し、入り口にカーテンをつけているのでプライベートな空間が確保されています。

ユニット型特別養護老人ホームは個室で30名定員。10人を一つのユニットとして3ユニット、3棟で暮らしていただいています。少人数で過ごすことで

人の利用者を把握しやすくなり、より個別的なケアが可能になっています。また、なじみの職員が介護することで、利用者に安心感を与えます。

ご本人の所得に応じて、申請することで利用料が減額になる場合がある為、申込者も多く400人以上の待機があります。

### <グループホーム>

ユニット型特養のモデルになった施設と言われています。認知症を患っている方が少人数で過ごし、家庭的な雰囲気の中で介護を行うことで、比較的穏やかに過ごしていただける場所になっています。入所されている方は要支援2以上の認知症の診断のある方になっています。

お部屋の中にトイレ、洗面所があり、広いお部屋ではお風呂も付いており、改めて一人暮らしをしていただくような環境になります。お部屋の広い場所では、同居人としてご夫婦でも過ごしていただけます。

申込者は比較的少なく、お部屋によっては、タイミングさえ合えば、早い段階で入所することができます。



### <軽費老人ホームケアハウス>

個室のマンションタイプの建物になっています。60歳以上の方であれば入居が可能になっています。介護が必要になれば、ヘルパーやデイサービスなどの在宅介護サービスを利用し、必要なケアプランを作成し、ご本人の望むケアを実現することが出

来ます。自宅として終の棲家として過ごしていただけます。

また、小規模多機能サービスを利用することにより、例え寝たきりの状態になったとしても、定額で毎日デイサービスなどの利用が可能になります。

お部屋に空きがある場合もあり、待機者は少ない状況にあります。



### <サービス付き高齢者向け住宅リバティかがわ>

サービス付き高齢者向け住宅とは、せいりょう園のスタッフが、居室を訪ねて安否確認を行い、困り事があった際の生活相談に対応出来るような環境を整えている住宅のことを言います。

ケアハウスと同じく、個室のマンションタイプの建物になっており、在宅サービスや小規模多機能サービスを利用することで、終の棲家として過ごしていただくことができます。

リバティかがわはケアハウスよりもお部屋が広く（33～41㎡）、ご夫婦で過ごしていただくことが出来ます。老人ホームで行っている個別ケアの実践を、より自宅に近い形で可能にする生活の場所になっています。

お部屋に空きがある場合もあり、待機者は少ない状況にあります。

以上の終の棲家をせいりょう園ではご用意しております。看取りに力を入れており、すべての棲家で看取りを行っています。また、身体拘束・抑制を行っていない為、玄関にもカギはかかっていません。

### 感想

施設の申込の相談を受ける際に、特別養護老人ホームは待機者が多数ありますので、急を要する方には、「終の棲家」としてケアハウスやリバティかがわをご紹介しますことがあります。相談者は、職員が常駐している特養に比べ、マンションタイプの個室のお部屋では、見守りが効かない生活の中で本当に最期まで過ごすことが出来るのか、と不安に思っている方がいらっしゃいます。実際には、特養でも日中は見守りのあるフロアで、過ごしていただきますが、夜間は個室、もしくは間仕切りのある二人部屋になります。24時間ずっと側にいる訳ではなく、もし、夜間にお部屋で転倒したとしてもリアルタイムに発見することは難しい状況にあるのです。ケアハウス、リバティかがわでも同じことが言え、日中は小規模多機能サービスのデイサービスを毎日通っていただき、夜間はお部屋に戻り、夜勤のヘルパーの巡回で安否確認をさせていただいており、見守りという意味では大きな違いはないように思います。自分に合うケアを、より個別に決めていくことの出来る、ケアハウスやリバティかがわでは、ご本人のニーズにお応えすることの出来る生活環境を整えております。ご見学も出来ますので一度覗いていただければと思います。

### せいりょう園待機者状況 <平成25年5月8日現在>

○入所判定済み者 420名（グループの内）

Ⅰグループ…148名 Ⅱグループ…162名 Ⅲグループ…110名

○入所判定済み者の現在状況

在宅169名／特別養護老人ホーム入所中13名／ケアハウス入居中5名

老人保健施設入所中101名／障害者施設2名／医療機関入院中111名

グループホーム入居中14名／所在不明5名

○辞退その他 せいりょう園入所1名／辞退1名／死去1名





## せいりょう園サービス付き高齢者向け住宅について



### ○リバティかこがわ

#### 兵庫県内 120 件の「サ高住ランキング」で『第 2 位』

「一般財団法人サービス付き高齢者向け住宅協会」のホームページで、紹介されています。 <http://www.satsuki-net/> をご覧ください。

空き室 4 室を「サ高住」に登録し、家賃も約 10% 値上げしたにもかかわらず、高い評価を戴きました。今までの 20 年の実績を評価して戴いたことを誇りとして、より一層の努力を誓います。

なお、従来の契約でご入居の方々には、今まで通り「サ高住」と同じサービスを提供してまいりますので、ご安心ください。

### ○自愛の家さくら

設計監理の間嶋建築設計事務所と、施工の前川建設㈱により「安全祈願祭」が 4 月 8 日に行われ、建築工事が始まりました。完成は 10 月末予定です。



24 戸 重量鉄骨 3 階建

「せいりょう園介護相談室」で「入居の予約申し込み」を受付けています。

要介護になっても自立した生活を営みたい方々にとって、最適な「生活空間」と「終の棲家」となる住宅を目指しています。

多くの皆さまのご相談を、お待ちしております。

### せいりょう園空き情報

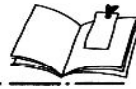
- ①ケアハウス：4 室（バス・トイレ・キッチン付 24㎡）
- ②サービス付き高齢者向け住宅「自愛の家さくら」H25 年 10 月竣工予定  
入居予約受付中 ※ご夫婦でも入居できますのでご相談ください。
- ③サービス付き高齢者向け住宅「リバティかこがわ」現在空きなし

### 他ケアハウス等空き情報

- |           |             |            |             |
|-----------|-------------|------------|-------------|
| ○恵泉       | ： 1 人部屋若干   | ○第二ケアハウス恵泉 | ： 1 人部屋若干   |
|           | ： 2 人部屋若干   | ○カピタツ はりま  | ： 1 人部屋 1 室 |
| ○サツトひまわり園 | ： 1 人部屋 1 室 | ○青山苑       | ： 1 人部屋 2 室 |
| ○キャッシル真和  | ： 1 人部屋 1 室 |            | ： 2 人部屋 2 室 |
| ○ネバーランド   | ： 1 人部屋 2 室 | ○むれさき苑     | ： 1 人部屋 1 室 |
|           | ： 2 人部屋 2 室 |            |             |



【問合せ先】 せいりょう園 Tel(079)421-7156 / (079)424-3433



真宗大谷派 光念寺

本多 正尚 住職

ディサービス 谷澤 高明

元プロ野球選手の長嶋茂雄・松井秀樹両氏に国民栄誉賞が授与された。アンチ巨人ファンではあるが、両氏には特別な感情で応援してきた私にも喜ばしいニュースであった。松井氏については昨年末彼が引退表明をした後、彼に対するメッセージがネット上にあふれているらしい。特に同世代の30~40代に多いとか。「自分は松井ほど人生を懸命に戦っただろうか」。共感を寄せたのは、スーパースターとしてより怪我やスランプに苦しみながらも野球選手としての職務を全うしようとする松井氏の姿である。バブル崩壊からリーマンショックまで、常に苦難の時代に直面した松井世代。異文化の中であらゆる困難を乗り越えようと闘う松井選手の姿は彼らの生きる支えになったのだろう。彼と親しい作家伊集院静氏は小説の中で『彼の人生はいつも、逆風に立っていた。それを平然と受け止め、克服してきたのだ。"逆風に立つ"それが松井秀樹の生き方だったのだ』と著す。スター選手として素晴らしい成績を残してファンを魅了し続けた彼も、実は水面を優雅に泳ぐ水鳥と同じく水の中では必死に足を動かし続けていたのだろう。

米国の新聞記者によると、彼を表現するのに一番ふさわしい言葉は"modest"だそうである。辞書には『慎み深い、控えめな、謙遜した』とある。常に対戦相手に敬意を払う。ホームランを打ってもガッツポーズをしない彼の姿は私の目にはいつも清々しく映った。

彼の高校時代の恩師は「松井は、天才です。努力の天才です」と振り返る。不器用だから人の何倍も努力する。試合

に勝利した後も、敗戦した後も、毎日変わらず努力をし続けて来たという。それは変化の少ない、集中力を削ぎやすい単純な作業であったろう。それが楽しいこと、好きなことであっても、休まず続けることは並大抵のことではない。それが恋愛であっても・・・作家高樹のぶ子の言によれば、『恋愛は必ず時間に敗れるものです』。(どのような熱愛もまた時間のなかで平坦な日常となり、人の関係性は変容していく。それは倫理の問題ではなく、抗しがたい人間の本性としてある)と。とまれ、両氏に改めて敬意を表します。

今月の仏教講話は先月に続いて、真宗大谷派光念寺本多正尚ご住職に来て頂いた。「暑いくらいですね。つい先日まで、肌寒さを感じていたのに、5月に入ってから、一気に季節が変わってしまいました。冬から夏に一足飛び、春はどこへ行ってしまったんですかね。今年3月、桜の花が咲く前に母を亡くしました。はやいもので49日法要も済ませ、もうツツジの季節です。10年前に父を亡くし、2年ほどして、母が心臓の病気で倒れました。救急車が来たのですが、生憎の日曜日で受け入れてくれる病院がなかなか見つからず、やっと3か所目の病院で手術を受けることが出来ました。熟練した医師のおかげで命を取り留めた訳ですが、そういう方に巡り合えることも大変なことです。昔は、命果てるのも、新しい命が誕生するのも皆、自分の家でした。しかし今は、子供の誕生も、近しい人の臨終も誰かに、どこかに任せてしまう。人にとって大事なことに会うことが無くなってしまいました」。

「最近読み直した本を紹介します。皆さん、『島秋人:しまあきと』という名を聞かれたことがありますか?(誰も反応が無い、私も知りません)。歌人です。本名は中村覚(さとる)、昭和42年、35歳で処刑された死刑囚です。窃盗にはいった家で妻に見つかり居直り強盗になったもので、逃走する際に事件の発覚を恐れ凶行におよびました。死刑判決が確定後、死刑執行の不安におびえながら読書を重ねるうち、子供の頃の図工の先生のことを思い出します。彼が描いたお地蔵さんの絵を「絵は下手だが、構図がおもしろい」と評してくれました。そのことを思い出した彼は先生に現況を報告して、先生の絵を送ってくれるように頼みました。そのことを知った先生の奥さんが絵と一緒にお地蔵さんを歌った歌を送ってやりました。それから彼は歌を作ることに励むようになります。仲間もでき、彼らの勧めもあって、いろんなところへ投稿し始めます。歌を通じて多くの友達ができます。新聞にも掲載されるまでになっていきます。ある女子高生が彼の歌を特集した歌集『遺愛集』を学校の文化祭で出します。女子高生と受刑者との文通

は続きます。彼女が歌集の出版を薦めますが、彼は彼が犯行に及んだ被害者の遺族の気持ちを思い頑なに断り続けます。処刑1か月後歌集は出版されました。その中から何点か紹介されました。

☆たまはりし処刑日までのいのちなり  
心素直に生きねばならぬ

☆素直にて昏(く)るる日のあり被害者のみたまに詫びて夕餉(ゆうげ)いただく

☆この手もて人を殺(あや)めし死囚われ同じ両手に今は花活(い)く

☆この澄めるころ在るとは識らず来て刑死の明日に迫る夜温(ぬく)し(処刑前夜)

この短歌に続いて彼は、「処刑前夜です。人間として極めて愚かな一生が明日の朝にはお詫びとして終わるので、もの哀しいはずなのに、夜気が温かく感じ得る心となっていて、嬉しいと思います。」と書き遺しているそうです。

ご住職は夕刻よりご予約があり、お忙しい中を大変ありがとうございました。6月の仏教講話は3日です。暑くなります。熱中症、紫外線に注意しましょう。



## 4月29日(月)アロママッサージ

平岡南中学校の家庭科部の生徒達8名がアロママッサージをしてくださいました。今回はテイサービス利用の皆様にお客さまとなって頂きました。

生徒達にとっては、自分の祖父母よりも年上の方々です。1人10分のマッサージで、最初は説明書を片手にぎこちない様子もありましたが、すぐに打ち解け、会話もはずみ和やかな時間が過ぎました。マッサージの後もおしゃべりをしたり、将棋をさしたりとあっという間の1時間でした。

今回とても好評だったので、また来てくれることになりました。マッサージだけでなく子供たちの笑顔に会えることも楽しみです。

